牛房　良嗣　議員

道徳の心を育てる町づくりを

牛房　今までの日本には一定のモラルがあり道徳が人格形成の土台とされてきた。

所が今は経済最優先、金儲け第一に走り金のためなら手段を選ばず、うそ、ごまかし、なんでもありの世の中。せめて志免町だけでも町民のために道徳の心を育てる町づくり、人づくりを目指すべきと思うが。

町長　最近の世相は嘆い事件が多すぎる。人間としてふみ行なうべき道、道徳について町民の方達にも勉強の機会をつくり、行政にも反映させていきたい。

牛房　道徳の心を育てることとは、難しい理屈ではない身近な問題。

例えば、空き缶拾い、犬のふんしまつ、挨拶の励行、敬老の心、ボランティア活動等の実践から始まる。町長は本運動の推進に積極的に立ち向かう熱意を諸団体、町民へ伝えるべきと思うが。

町長　私もウォーキング時には牛房議員に負けないように、空き缶拾い、犬のふんのしまつをしていきたい。

ちょっとした思いと行動が町を明るくし、道徳の心をはぐくむ町づくりにつながるものと考える。真剣に、心新たに本問題と取組みたい。

牛房　町にとって今一番の大事は行財政改革といわれるが、それ以上大事なことは心の改革「道徳の心を育てる」ことと確信する。

10年、20年経て、子供たちが志免町で育ったことを誇りに思う町づくりを。

写真　子どもの道徳心を育てる

吉田　耕二　議員

新たな合併の動きを問う

吉田　全員協議会において、郡内が大きくまとまるための要として合併論に参加して頂く事を、粕屋町に要請に赴くと述べてあった。

その後、どの様な進展をしているのか。

町長　平成15年7月に宇美、志免、須恵3ヶ町で合併問題の任意協議会を設置した。

9ヶ月間に渡って協議を進めたが、法定協議会に入る前に解散となった。

その後、平成17年度から21年までの時限立法として合併新法がスタートしている。南部3ヶ町は中部と、特に粕屋町と合併できたらと言う共通点がある。

その様な事から粕屋町に合併の要になって頂けないかと申し入れをした。

粕屋町からは、篠栗、久山にも同じ手順を踏んでもらえないかとの話があった。

3月議会終了後、検討協議をしたい。

吉田　平成21年までをめどに1つの方向性を出して行きたいとの事だが、任意協とか法定協とかに対してスケジュールの様なものを持っているのか。

町長　中部と南部がどの様な枠組みになるか今のところ定かではない。

しかし、合併について意欲のある所が出て来たら、任意協、法定協と進むと思う。

今回は、県の合併支援室がある程度リードをしてくれるので、指導を賜り新法の時間内に合併に向けた取り組みができないか模索をしている。

写真　平成15年度説明会

その他の質問
・須恵インターへの補助など

野上　順子　議員

住民への情報提供は充分か

野上　合併等大きな課題が山積している大切な時、町長が状況を知らせ声を聞いて回る事が大事。

企画財政課長　町政懇談会や報告会等あるかと思う検討していきたい。

野上　健康プロジェクトチームが町内会を回ったが反響はどうだったのか。

健康課長　よい意見が多くでた。今後も続けたい。

野上　町民会議のメンバーが各町内会やスーパーの前でゴミの減量を訴えた時代もあった、今回環境課が町内会を回られたがその総括は。

環境課長　参加された方から、ごみ処理に多くの税金が又費用がかかっていたのか、驚かれた声も上がった。18年度も地域の方々・NPOの方々の支援を受けながら減量を進めていきたい。

野上　二課が住民の声を聞くことをしてもらった、しかしその先頭は町長であってほしい。

町長　住民の御意見を聞く。又、町の情報を提供するのは私の務めである。今後鋭意取り組んでいきたい。

野上　竪坑について反対賛成の署名が回り、どうなるのか、不安を感じている住民もいる。どう説明をしていくのか。

町長　「保存させていただきたい」ということでお願いしていきたい。

野上　保育園の民営化など政策の転換も、今後されていく予定だが住民説明はどうされるのか。

町長　保護者や住民の理解・協力を得る必要がある。

十分な情報を提供し保護者説明会等を開催し要望を聞きたい。

写真　保育園の民営化？

古庄　信一郎　議員

竪坑櫓、国、県、新聞社説も高い評価！ 町長も確信！ 残して活かそう 地域の宝「竪坑櫓」！

古庄　首長が遺跡の保存を決定したのに議会が反対した例は聞いたことがない。残したいとの町長の思いは。

町長　土木学会からの保存要請に櫓は過去からの素晴らしい贈り物、負の遺産でなく正の遺産とある。

個性ある町づくりに生かす、住民が誇りを感じる町、希少な地域遺産というプラス要素。近代遺産の保存再生に限っては撤去の先送りこそ英断だ。今は残す事が先決。

古庄　西日本新聞社説での高い評価については。

町長　遺産としての意識を強くし、残す方向が誤りでないと確信した。

古庄　県、国の認識は。

教育長　石炭産業の代表的な遺産。歴史を学ぶ遺跡として保存し後世に伝える事は極めて意義深く、国も県も文化財としての指定は地元が保存の意向を明確にすることが重要との考えだ。

古庄　議会の解体決議ではネドに解体させ何億という金を払って買えという。

一方、町長は土地も櫓も全て無償で受け、見守り保存をすると言う。保存には莫大な金と危ないとの誤解がある。率直な思いを。

町長　先人に感謝し、伝統を子供達に受継いで行き、そういう感謝の気持ちも含め歴史的なものとして評価するならば、お金に換算することができない付加価値を十分に生み出す可能性を秘めている。

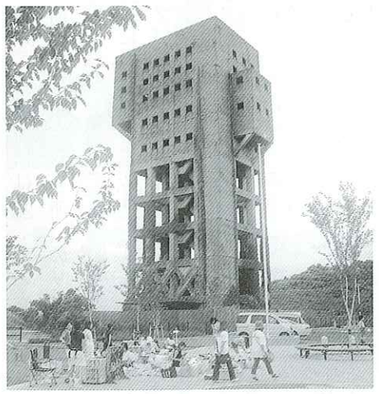

写真　竪坑櫓